

令和3年度 男女双方の意識改革に係る調査業務報告書

2021年6月14日
Rakuten Insight, Inc.

目次

I.調査設計	2
II.回答者属性	4
III.対象者プロフィール	
Q3 未既婚	8
Q4 世帯構成	8
Q1 現在の就業状況	9
Q5 共働き状況	9
Q2 ご自身の年収	10
Q2 世帯年収	10
IV.まとめ	11
V.結果の詳細	
1. 性別に関する意識	
Q6 性別に関する意識の影響度	15
Q7 性別の意識に影響された経験	16
Q8 性別意識に影響された場面	17
Q9 性別意識に影響された経験理由	18
2. 男女共同参画に関する意識	
Q10 男女の地位の平等感	20
Q11 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」への意見	22
Q12 女性が職業を持つことに対する意見	23
Q13 男女の役割に対する意見	24
3. ワークライフバランスについて	
Q14 現在の「仕事」「家庭生活」「自由時間」の優先度	27
Q15 理想の「仕事」「家庭生活」「自由時間」の優先度	29
Q16 現実と理想のギャップの理由	31

I . 調査設計





調査設計

調査目的	<p>広島県では令和3年3月に「わたらしい生き方応援プランひろしま」（広島県男女共同参画基本計画（第5次））を策定した。</p> <p>初年度である現在の広島県民における男女共同参画意識を把握し、令和7年までの5年間で実施する目標を設定するために活用する。</p>
-------------	--

調査地域	広島県
調査手法	インターネット調査
調査対象者	【本調査】 広島県民である15～69歳の男女
サンプルサイズ	【本調査】 合計 1,000ss
調査期間	2021年5月24日(月)～5月31日(月)

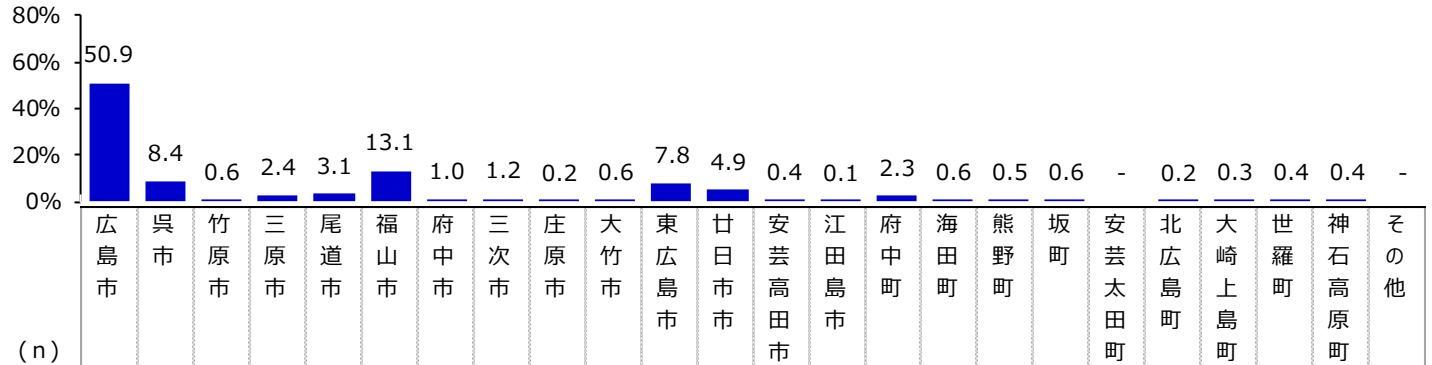
Ⅱ. 回答者属性

※数表内の網掛け
※ n = 30未満は網掛けせず

-  全体値より20pt以上高いもの
-  全体値より 10pt以上高いもの
-  全体値より 10pt以上低いもの
-  全体値より20pt以上低いもの

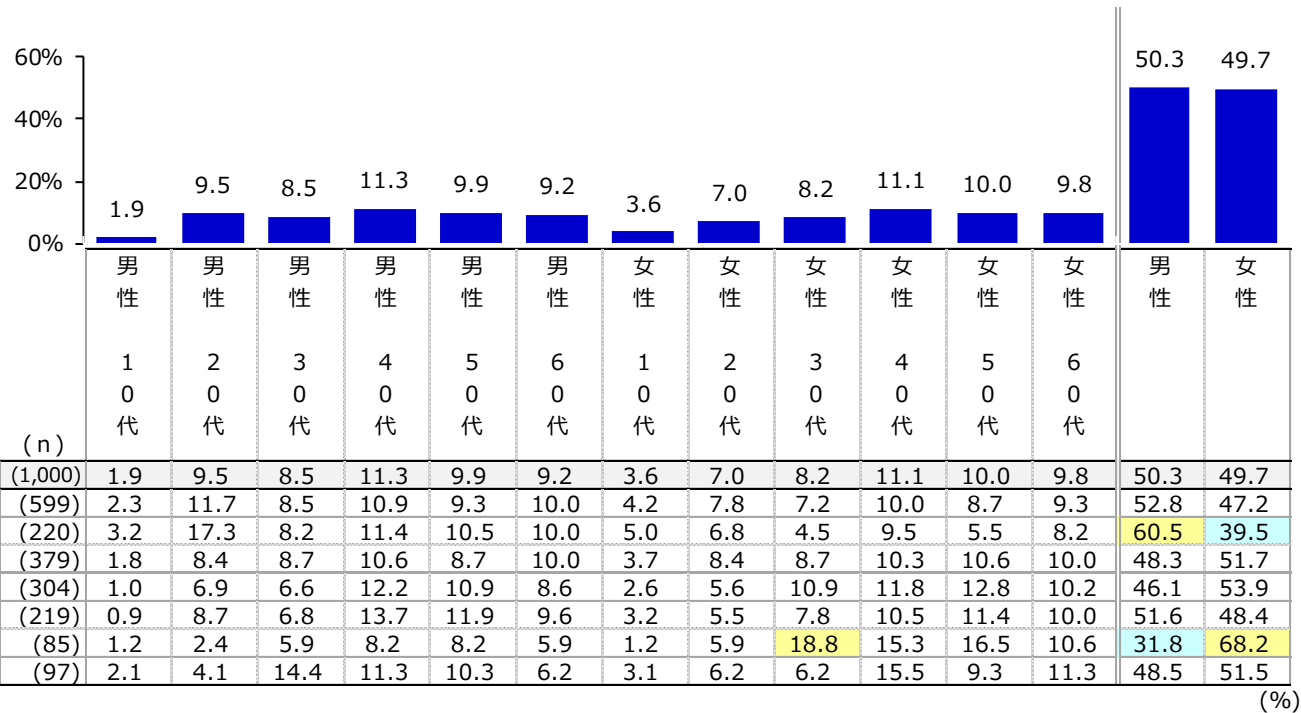
居住地

SC1.あなたのお住いの市町はどちらですか。(SA)



		(n)	広島市	呉市	竹原市	三原市	尾道市	福山市	府中市	三次市	庄原市	大竹市	東広島市	廿日市市	安芸高田市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町	安芸太田町	北広島町	大崎上島町	世羅町	神石高原町	その他	
全体		(1,000)	50.9	8.4	0.6	2.4	3.1	13.1	1.0	1.2	0.2	0.6	7.8	4.9	0.4	0.1	2.3	0.6	0.5	0.6	-	0.2	0.3	0.4	0.4	-	
性別	男性	(503)	48.9	8.0	0.6	2.2	2.4	13.7	0.8	1.0	0.2	0.6	8.7	5.0	0.4	0.2	2.8	0.8	0.8	0.8	-	0.4	0.6	0.4	0.8	-	
	女性	(497)	52.9	8.9	0.6	2.6	3.8	12.5	1.2	1.4	0.2	0.6	6.8	4.8	0.4	-	1.8	0.4	0.2	0.4	-	-	-	0.4	-	-	
年代別	10代	(55)	49.1	7.3	-	3.6	5.5	10.9	-	1.8	1.8	-	14.5	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-
	20代	(165)	49.7	8.5	-	1.8	3.0	15.2	1.2	0.6	-	0.6	9.7	2.4	0.6	-	2.4	1.2	-	1.8	-	-	-	-	-	1.2	-
	30代	(167)	52.1	7.8	0.6	1.2	1.8	10.2	1.2	1.2	-	0.6	9.6	6.6	-	-	3.0	1.2	0.6	1.2	-	-	0.6	0.6	-	-	-
	40代	(224)	52.2	8.5	1.3	2.2	2.7	12.1	2.7	1.8	-	0.9	5.8	4.5	1.3	-	2.7	0.4	-	0.4	-	-	-	0.4	-	-	-
	50代	(199)	51.8	8.5	0.5	3.0	3.0	13.6	-	0.5	0.5	0.5	7.5	5.5	-	0.5	1.5	0.5	1.0	-	-	0.5	-	0.5	0.5	-	-
	60代	(190)	48.9	8.9	0.5	3.2	4.2	15.3	-	1.6	-	0.5	5.3	5.8	-	-	2.6	-	1.1	-	-	0.5	1.1	0.5	-	-	-
影響ない選択の	できている計	(599)	50.3	9.2	0.5	2.3	2.3	13.9	1.2	0.8	0.2	0.7	7.5	5.0	0.5	-	2.2	0.8	0.5	0.5	-	0.2	0.3	0.5	0.7	-	
	できている	(220)	54.5	8.6	0.5	2.7	1.4	13.6	0.9	1.4	-	0.5	7.3	4.5	-	-	0.9	0.5	0.9	0.9	-	0.5	-	0.5	-	-	
	どちらかというできている	(379)	47.8	9.5	0.5	2.1	2.9	14.0	1.3	0.5	0.3	0.8	7.7	5.3	0.8	-	2.9	1.1	0.3	0.3	-	-	0.5	0.5	1.1	-	
	できていない計	(304)	50.7	7.6	0.7	2.3	4.6	11.5	1.0	1.6	0.3	-	8.9	5.6	-	0.3	2.6	0.3	0.3	0.7	-	0.3	0.3	0.3	-	-	
	あまりできていない	(219)	44.7	9.6	0.9	3.2	5.9	12.3	0.9	1.4	0.5	-	10.0	4.6	-	0.5	3.7	-	0.5	0.5	-	-	0.5	0.5	-	-	
	できていない	(85)	65.9	2.4	-	-	1.2	9.4	1.2	2.4	-	-	5.9	8.2	-	-	-	1.2	-	1.2	-	1.2	-	-	-	-	
わからない	(97)	55.7	6.2	1.0	3.1	3.1	13.4	-	2.1	-	2.1	6.2	2.1	1.0	-	2.1	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-		





性年代



(%)

Ⅲ. 対象者プロフィール

※数表内の網掛け
※ n = 30未満は網掛けせず

-  全体値より20pt以上高いもの
-  全体値より 10pt以上高いもの
-  全体値より 10pt以上低いもの
-  全体値より20pt以上低いもの

未既婚／世帯構成

未既婚は、「未婚」32%、「既婚（配偶者有）」59%、「既婚（離死別）」8%。

➢ 年代別では、高年齢層ほど「既婚（配偶者有）」が高まる。

➢ 性別意識の影響ない選択では、『できていない計』で「既婚（配偶者有）」が69%と「できている計」に比べて13pt高い。

世帯構成では、「ひとり暮らし」19%、「夫婦」21%、「夫婦と子」39%、「その他」20%。

Q3.あなたは結婚されていますか。(SA)
Q4.あなたの世帯構成を教えてください。(SA)

		未既婚			
		未婚	既婚 (配偶者有)	既婚 (離死別)	その他/ 答えたくない
		(n)			
全体		(1,000)	31.7	58.9	7.9
性別	男性	(503)	34.6	59.6	5.2
	女性	(497)	28.8	58.1	10.7 2.4
年代別	10代	(55)	98.2		
	20代	(165)	65.5		
	30代	(167)	30.5	62.3	5.4
	40代	(224)	27.2	62.5	8.5
	50代	(199)	16.1	73.4	9.0
	60代	(190)	5.8	75.8	16.3 2.1
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	35.1	56.1	7.8
	できている	(220)	44.5	46.4	7.7
	どちらかというどできている	(379)	29.6	61.7	7.9
	できていない計	(304)	22.7	69.4	6.6
	あまりできていない	(219)	23.7	68.5	7.3
	できていない	(85)	20.0	71.8	4.7 3.5
	わからない	(97)	39.2	43.3	12.4 5.2

※2%未満は非表示 (%)

		世帯構成				
		ひとり暮らし	夫婦	夫婦（または自分） と子	その他	
		(n)				
全体		(1,000)	19.1	21.2	39.3	20.4
性別	男性	(503)	21.3	19.3	39.8	19.7
	女性	(497)	16.9	23.1	38.8	21.1
年代別	10代	(55)	34.5	18.2	47.3	
	20代	(165)	33.3	12.1	28.5	26.1
	30代	(167)	18.0	10.8	54.5	16.8
	40代	(224)	17.0	14.3	51.8	17.0
	50代	(199)	11.6	28.1	42.7	17.6
	60代	(190)	13.7	45.3	23.2	17.9
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	21.7	19.9	37.7	20.7
	できている	(220)	27.7	20.9	27.7	23.6
	どちらかというどできている	(379)	18.2	19.3	43.5	19.0
	できていない計	(304)	13.8	24.7	45.1	16.4
	あまりできていない	(219)	14.2	25.1	45.7	15.1
	できていない	(85)	12.9	23.5	43.5	20.0
	わからない	(97)	19.6	18.6	30.9	30.9

※2%未満は非表示 (%)

現在の就業状況／共働きの状況

現在の就業状況は、「正社員・正職員」48%と最も多く「有職計」は73%。

- ▶ 性別では、女性の「有職計」は62%と男性を20pt以上下回り、「パート・アルバイト」が26%と多い。
- ▶ 性別意識の影響ない選択では、女性比率の高い『できていない』では「無職」が3割弱と高い。

既婚者の共働き状況は、「共働き世帯」が56%と「共働き世帯でない」を11pt上回る。

- ▶ 年代別では、60代で「共働き世帯でない」が67%と高い。
- ▶ 性別意識の影響ない選択では、『できている計』のほうが「共働き」が61%と『できていない計』を10pt上回る。

Q1.あなたの現在の就業状況・形態は次のどれですか。(SA)
Q5. 共働き世帯ですか。(SA)

		職業								有職計		
		正社員・ 契約社員・ 嘱託	契約社員・ 派遣社員	パート・ アルバイト	自営業	学生	無職	その他				
全体		(1,000)	47.9	4.6	15.4	4.3	7.1	17.7	2.5	72.7		
性別	男性	(503)	67.4			5.8	5.2	4.8	5.6	9.7	83.3	
	女性	(497)	28.2	3.4	25.8	3.8	8.7	25.8	3.6	62.0		
年代別	10代	(55)	7.3	89.1						9.1		
	20代	(165)	66.1			6.7	13.3	7.9	2.4	76.4		
	30代	(167)	62.9			4.8	10.2	2.4	17.4	81.4		
	40代	(224)	57.1			3.1	18.3	3.6	13.4	3.6	83.0	
	50代	(199)	50.8			5.0	21.6	7.0	13.6	2.0	84.4	
	60代	(190)	16.8	9.5	21.6	7.9	40.5		3.7	55.8		
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	49.2			5.2	14.5	5.7	8.2	14.5	2.3	75.0
	できている	(220)	52.3			2.7	11.8	6.8	10.5	12.7	2.7	74.1
	どちらかというとき	(379)	47.5			6.6	16.1	5.0	6.9	15.6	2.1	75.5
	できていない計	(304)	47.7			3.6	17.8	2.6	4.9	20.7	72.4	
	あまりできていない	(219)	52.5			3.2	16.9	2.3	5.9	17.4	75.3	
	できていない	(85)	35.3	4.7	20.0	3.5	2.4	29.4	3.5	64.7		
	わからない	(97)	40.2	4.1	13.4	7.2	27.8		5.2	59.8		

※2%未満は非表示 (%)

有職計は「正社員・正職員～自営業」

※既婚かつ世帯構成で「夫婦」選択者ベース

		共働き状況		
		共働き世帯である	共働き世帯でない	
全体		(541)	55.6	44.4
性別	男性	(279)	53.8	46.2
	女性	(262)	57.6	42.4
年代別	10代	(0)		
	20代	(52)	63.5	36.5
	30代	(102)	59.8	40.2
	40代	(130)	59.2	40.8
	50代	(132)	67.4	32.6
	60代	(125)	32.8	67.2
性別意識の影響ない選択	できている計	(306)	61.1	38.9
	できている	(91)	62.6	37.4
	どちらかというとき	(215)	60.5	39.5
	できていない計	(198)	51.5	48.5
	あまりできていない	(142)	53.5	46.5
	できていない	(56)	46.4	53.6
	わからない	(37)	32.4	67.6

※2%未満は非表示 (%)

個人年収／世帯年収

個人年収の平均は342万円。

- ▶ 性別では、男性は平均467万円、女性は平均207万円と差が大きい。
- ▶ 年代別では10代-50代では高年代ほど平均が高まる。

世帯年収の平均は614万円。

- ▶ 性別意識の影響ない選択では、共働き比率の低い『できていない計』の平均が高い。

Q2-1.あなたの収入の状況をお教えてください。(世帯ではなく、あなた自身の年収をおおよそでお答えください。)(SA)
 Q2-2.あなたの世帯年収の状況をお教えてください。(個人の年収ではなく、世帯の年収をおおよそでお答えください。)(SA)

		個人年収								加重平均	世帯年収						加重平均				
		(n)	50 万円未満	~100 万円未満	~150 万円未満	~250 万円未満	~500 万円未満	~750 万円未満	~1,000 万円未満	1,000 万円以上	わからない/ 答えたくない	(n)	250 万円未満	~500 万円未満	~750 万円未満	~1,000 万円未満	1,000 万円以上	わからない/ 答えたくない			
全体		(1,000)	13.2	8.5	7.4	10.3	25.3	13.5	4.6	2.9	14.3	342.2	(1,000)	11.0	22.6	24.5	15.3	7.6	19.0	613.8	
性別	男性	(503)	4.2	4.0	8.3	32.2	22.5	7.8	5.0	11.5		467.1	(503)	9.7	21.7	27.0	18.3	9.5	13.7	646.5	
	女性	(497)	21.9	12.9	10.9	12.3	18.3	4.4	17.1		207.2	(497)	12.3	23.5	21.9	12.3	5.6	24.3		576.1	
年代別	10代	(55)		38.2		18.2	3.6	5.5	3.6	27.3		153.5	(55)	14.5	12.7	12.7	18.2	3.6	38.2		591.2
	20代	(165)	12.7	10.3	4.1	11.5	43.0	7.9	10.3		297.1	(165)	7.9	30.3	25.5	13.9	5.5	17.0		588.5	
	30代	(167)	12.0	3.6	8.4	6.0	34.7	17.4	4.8	12.0		367.5	(167)	6.6	29.3	28.1	15.0	3.6	17.4		589.7
	40代	(224)	12.1	7.1	7.1	10.7	17.4	21.9	7.6	8.6	12.5	399.0	(224)	9.4	18.8	25.0	17.9	11.2	17.9		667.1
	50代	(199)	10.1	7.0	8.5	9.5	18.6	17.6	7.5	5.0	16.1	408.2	(199)	9.0	15.6	23.1	19.6	12.1	20.6		691.1
	60代	(190)	12.1	11.6	11.6	15.3	23.7	4.7	3.2	16.3		268.7	(190)	20.5	24.7	24.7	8.4	5.3	16.3		523.0
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	12.4	7.7	7.7	11.7	28.5	13.0	5.2	2.5	11.4	343.5	(599)	11.7	23.4	23.2	17.2	7.2	17.4		610.2
	できている	(220)	13.6	6.8	7.7	12.7	30.0	10.9	4.5	2.7	10.9	331.9	(220)	11.8	26.8	18.2	18.2	6.8	18.2		596.3
	どちらかというどできている	(379)	11.6	8.2	7.7	11.1	27.7	14.2	5.5	2.4	11.6	350.3	(379)	11.6	21.4	26.1	16.6	7.4	16.9		618.2
	できていない計	(304)	15.1	10.5	6.6	7.6	21.4	16.1	4.3	3.9	14.5	352.1	(304)	9.5	20.1	28.9	15.1	8.9	17.4		640.3
	あまりできていない	(219)	13.2	11.4	5.0	8.2	21.9	18.7	4.1	4.1	13.2	367.7	(219)	8.7	19.6	30.1	15.1	10.0	16.4		654.4
	できていない	(85)	20.0	8.2	10.6	5.9	20.0	9.4	4.7	3.5	17.6	309.7	(85)	11.8	21.2	25.9	15.3	5.9	20.0		602.6
わからない	(97)	12.4	7.2	8.2	10.3	17.5	8.2	12.1	32.0		292.1	(97)	11.3	25.8	18.6	4.1	6.2	34.0		537.9	

※2%未満は非表示 (%)

※2%未満は非表示 (%)

IV. まとめ

まとめ

性別意識に影響された選択の有無

性別意識に影響されることなく、働き方や暮らし方の選択を「どちらかという」とも含めた「できている計」は60%であり、「できていない計」(30%)を大きく上回る

- ・ 属性別では、「できている計」は男性、20代以下が高く、「できていない計」は女性、30代以上が高めである。

性別意識に影響された選択経験

実際に性別意識に影響された選択の経験者は全体の3割。

- ・ 属性別に経験率をみると、女性、10代で4割を超えて高い。
- ・ 性別意識の影響のない選択が『できていない』回答者の経験率は62%と、『できている』(20%)を大きく上回る。過去の体験が、性別意識の影響のない選択の回答に大きく影響している様子が伺える。

性別意識に影響された場面の上位は、「家事・育児・介護の負担」「就職」「結婚」。

- ・ 属性別では、女性、50代、性別意識の影響のない選択の『できていない』回答者で、「家事・育児・介護の負担」が高い。

性別意識に影響された理由は、「社会一般の意識が変わっていない」が最も高い。

- ・ 属性別では、女性は「周囲の人の性別による固定的な意識が変わっていない」が高い。
- ・ 性別意識の影響のない選択の『できている計』に比べ、『できていない計』は「自分自身の固定的な意識が変わっていない」が高めである。

まとめ

男女共同 参画意識

- 男女地位の平等感は『学校教育』を除き、男性優位との意見が大半。
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意見へは「反対計」が6割弱と多く、女性が職業を持つことへも7割が賛成している。
- 一方、『家計を支えるのは男性の役割』『育児休業は女性が取得したほうがよい』は過半数が肯定している。
- ・ 属性別では、男女地位の「男性優位」、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」への反対意見、男女の役割に対する否定意見とも、女性の方が高い傾向。
 - ・ 女性が職業を持つことへの「賛成」意見は高年代ほど高いものの、男女の役割に対する肯定意見も高年代ほど高く、性別による役割意識の根深い様子がうかがえる。

ワーク ライフ バランス

- 現在の生活の優先度は「仕事」が最も高いが、理想では「仕事」は減少し、「自由時間」が増加。現実と理想のギャップは「仕事を優先せざるを得ない」から。
- ・ 現在の優先度は、女性、性別意識の影響のない選択が『できていない』回答者は「家庭生活」が中心。
 - ・ 理想では、男性の「仕事」が大きく減少し、「家庭生活」「自由時間」が増加。女性、性別意識の影響ない選択の『できていない』回答者は「家庭生活」が減少し、「自由時間」が増加。

V. 結果の詳細

1. 性別に関する意識
2. 男女共同参画に関する意識
3. ワークライフバランスについて

性別に関する意識の影響度

性別に関する意識に影響されることなく働き方や暮らし方を選択できている（「できている計」）は、全体の6割。

- 性別では、男性のほうが「できている」が高い。
- 年代別では、10-20代で「できている計」が7割と高い。

Q6.あなたは、現在、『男だから』あるいは『女だから』○○すべきといったような、性別に関する意識に影響されることなく、働き方や暮らし方を選択できていると感じますか。(SA)

		(n)	できている	どちらかというどできている	あまりできていない	できていない	わからない	できている計	できていない計	
全体		(1,000)	22.0	37.9	21.9	8.5	9.7	59.9	30.4	
性別	男性	(503)	26.4	36.4	22.5	5.4	9.3	62.8	27.8	
	女性	(497)	17.5	39.4	21.3	11.7	10.1	56.9	33.0	
年代別	10代	(55)	32.7	38.2	16.4	3.6	9.1	70.9	20.0	
	20代	(165)	32.1	38.8	18.8	4.2	6.1	70.9	23.0	
	30代	(167)	16.8	39.5	19.2	12.6	12.0	56.3	31.7	
	40代	(224)	20.5	35.3	23.7	8.9	11.6	55.8	32.6	
	50代	(199)	17.6	36.7	25.6	10.6	9.5	54.3	36.2	
	60代	(190)	21.1	40.0	22.6	7.4	8.9	61.1	30.0	
性別 影響別 ない意識 の 選の	できている計	(599)	36.7		63.3			100.0	0.0	
	できていない計	(304)	72.0			28.0		0.0	100.0	
	わからない	(97)	100.0							0.0

※2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

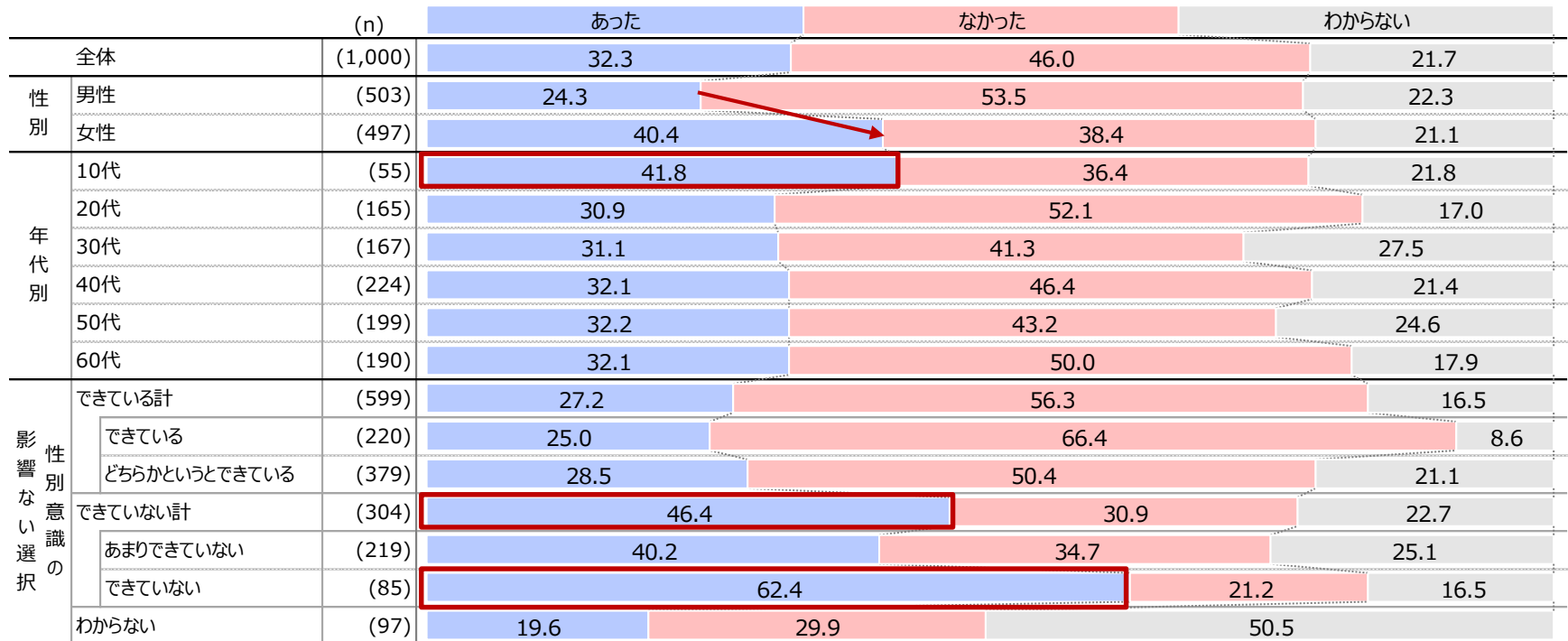
できている計は「できている+どちらかというどできている」/できていない計は「あまりできていない+できていない」

性別の意識に影響された経験

性別に関する意識に影響されたために、働き方や暮らし方を選択できないことが「あった」は全体の3割強。半数弱は「なかった」と回答。

- 性別では、女性で「あった」が4割と、男性を16pt上回る。
- 年代別では、10代で「あった」が4割強と高く、他の年代を10pt程度上回る。
- 性別意識の影響ない選択別では、『できていない計』で「あった」が半数弱、『できていない』では6割を超えて高い。

Q7.あなたは、過去において、『男だから』あるいは『女だから』〇〇すべきといったような、性別に関する意識に影響されたために、働き方や暮らし方を選択できなかった経験はありましたか。(SA)



※2%未満は非表示 (%)

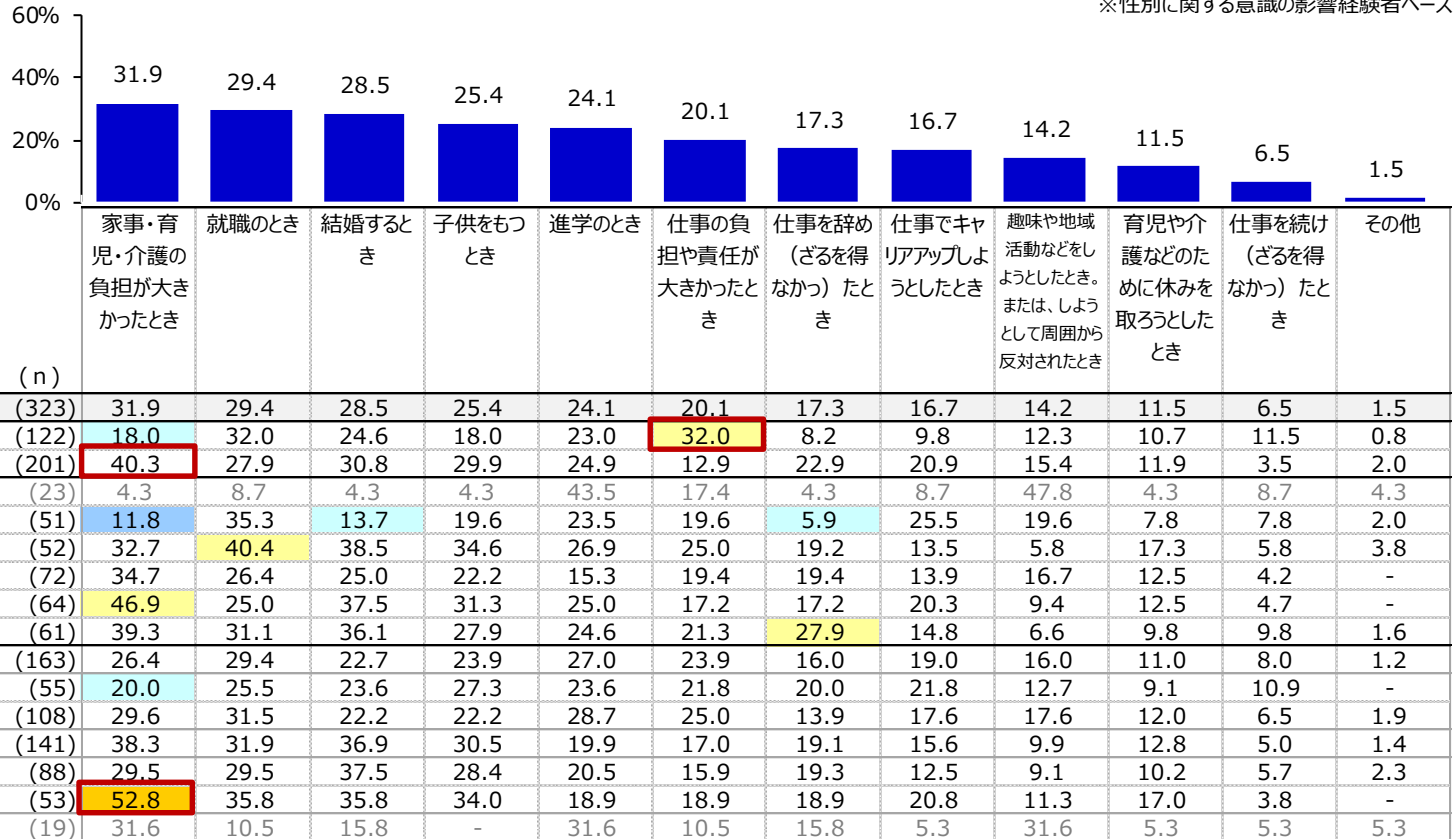
性別意識に影響された場面

性別に関する意識に影響され、働き方や暮らし方を選択できなかった場面として、「家事・育児・介護の負担が大きかったとき」「就職のとき」「結婚するとき」が3割前後で上位であった。

- ▶ 性別では、男性は「就職のとき」「仕事の負担や責任が大きかったとき」が32%で最も高い。一方、女性は「家事・育児・介護の負担が大きかったとき」が4割と男性を22pt上回り、傾向が異なる。
- ▶ 性別意識の影響ない選択では、『できていない』で「家事・育児・介護の負担が大きかったとき」が半数強と高い。

Q8.それはどのような場面で経験しましたか。(MA)

※性別に関する意識の影響経験者ベース



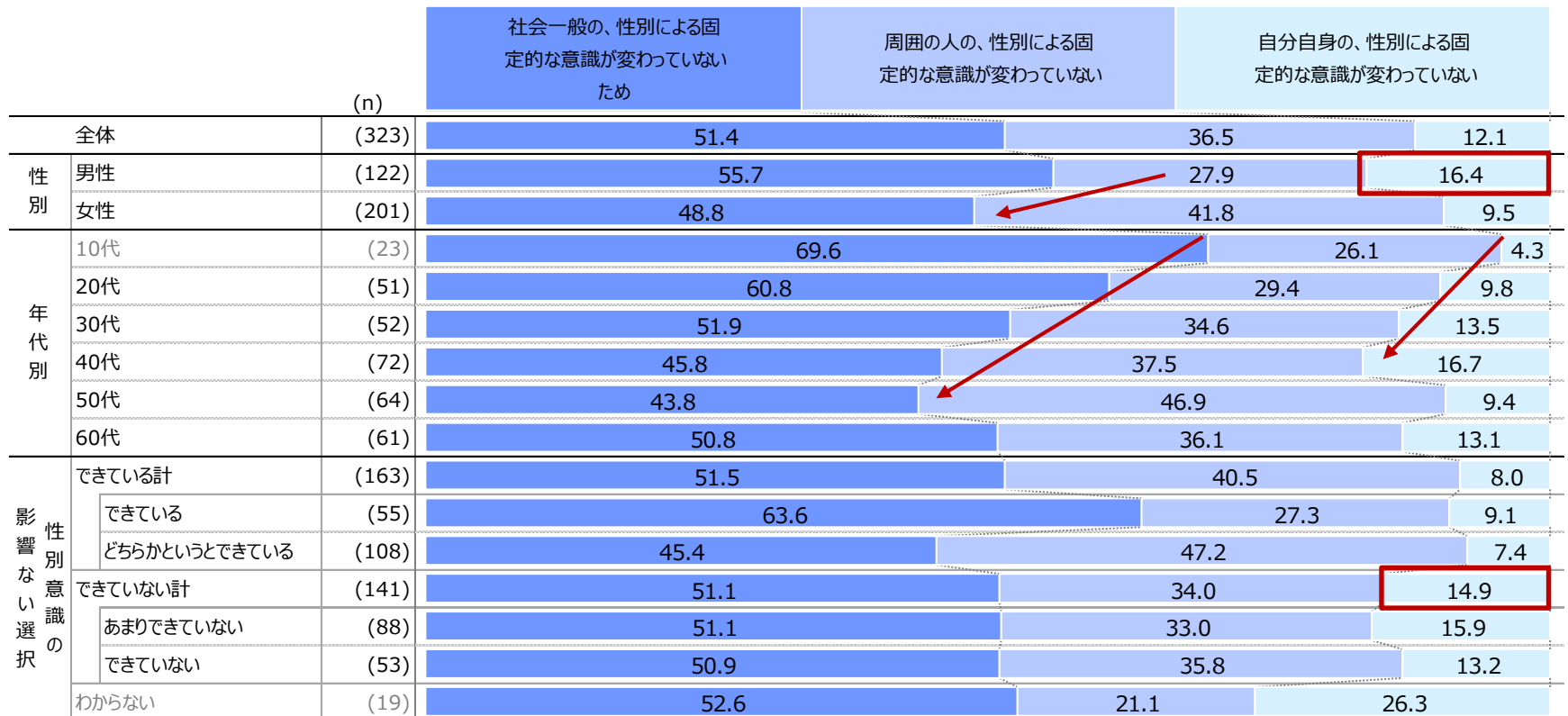
※全体値で降順ソート(%)

性別意識に影響された経験理由

性別に関する意識に影響されたために、働き方や暮らし方を選択できないことが「あった」理由として、「社会一般の意識が変わっていないため」が半数強を占める。「周囲の人の意識」は4割弱。

- 性別では、女性で「周囲の人の意識」が4割強と男性を14pt上回る。男性では「自分自身の意識」が一定数みられる。
- 年代別では、高年齢層ほど「社会一般の」が減少し、「周囲の人の」「自分自身の」が高まる。
- 性別意識の影響ない選択では、『できていない計』で「自分自身の」が『できている計』に比べて7pt高い。

Q9.それはなぜだと思いますか。(SA)
※性別に関する意識の影響経験者ベース



※2%未満は非表示 (%)

V. 結果の詳細

1. 性別に関する意識
2. **男女共同参画に関する意識**
3. ワークライフバランスについて

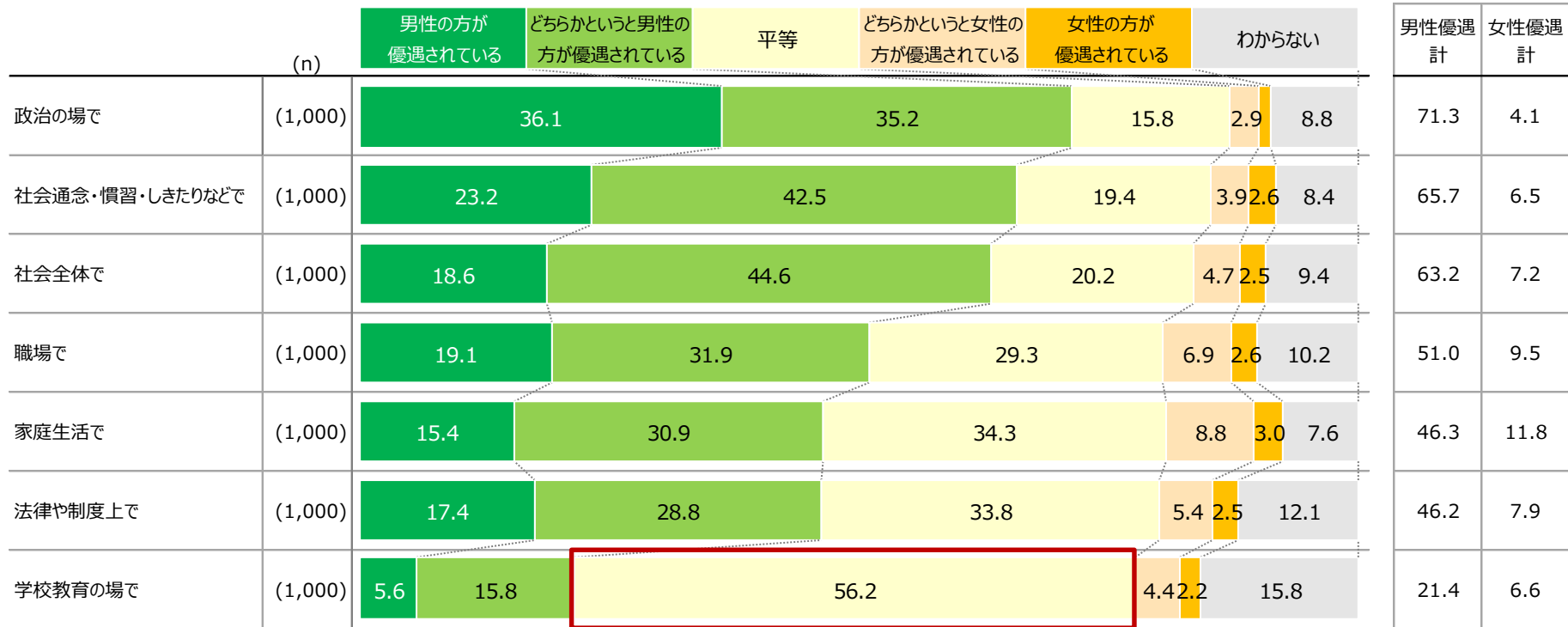
男女の地位の平等感【全体】

男女の地位について『政治の場で』『社会通念・慣習・しきたりなどで』『社会全体で』は6割以上が「男性優遇計」とし、「女性優遇計」は1割に満たない。

『職場で』『家庭生活上で』『法律や制度上で』では半数前後が「男性優遇計」とし、「平等」も3割前後みられる。

『学校教育の場で』で「平等」が56%と提示した7項の中で最も高い。いずれも「女性優遇計」が「男性優遇計」を上回る項目はみられない。

Q10.あなたはここに挙げるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(各SA)



男性優遇計で降順ソート

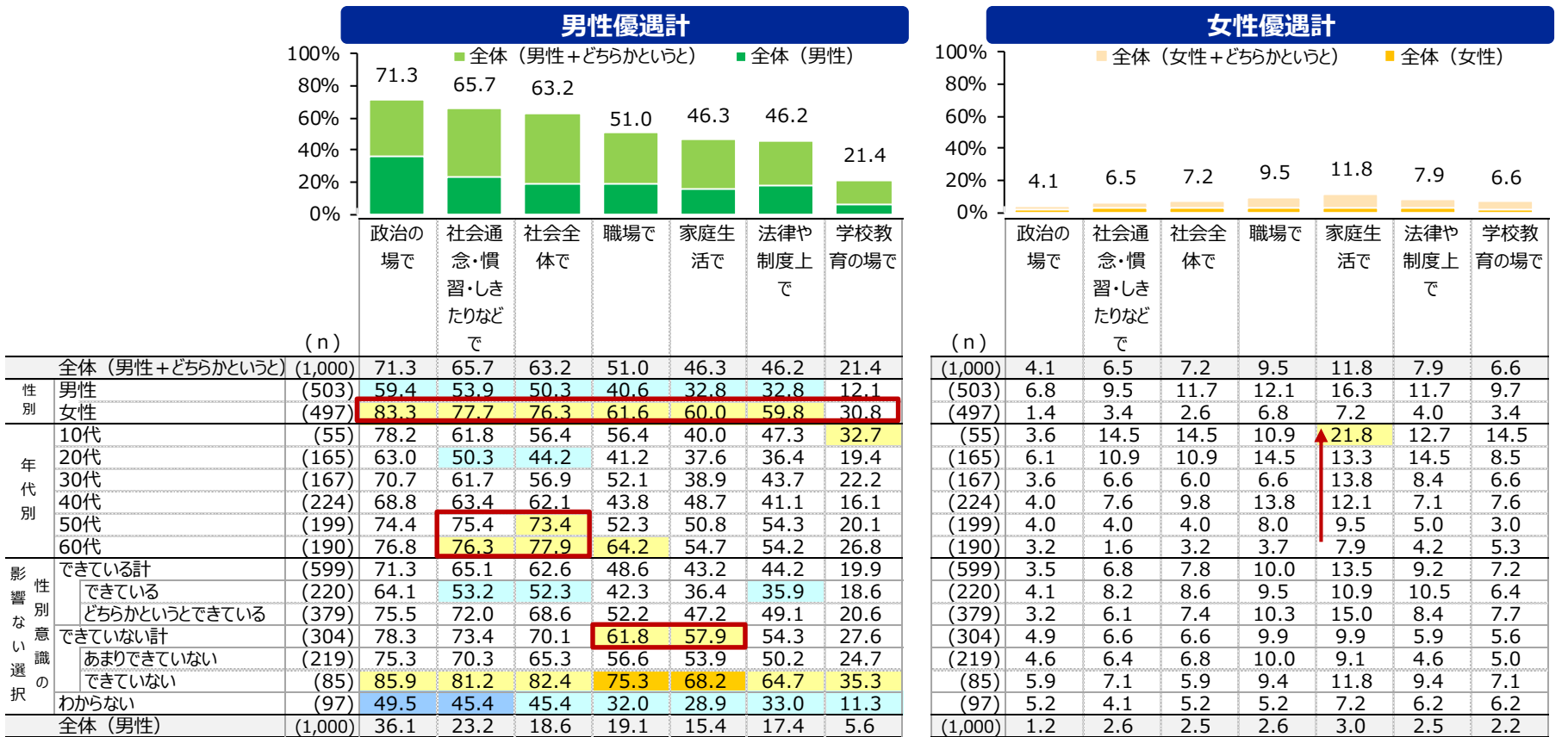
※2%未満は非表示 (%)

男性優遇計：「(どちらかという)男性の方が優遇されている」、女性優遇計：「(どちらかという)女性の方が優遇されている」

男女の地位の平等感【属性別】

- 男性優遇計について、属性別にみると、女性の方が男性に比べスコアが高く、「男性が優遇されている」との認識が強い。
- 年代別では50-60代で「社会通念・慣習・しきたりなどで」「社会全体で」が7割を超え、若年層に比べて高い。
- 性別意識の影響ない選択別では、『できていない計』は全般に『できている計』を上回るが、「職場で」「家庭生活で」の差が大きい。
- 女性優遇計では、若年層ほど「家庭生活で」が高まる。

Q10. あなたはここに挙げるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(各SA)



※全体値で降順ソート(%)

※男性優遇計で降順ソート(%)

「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」への意見

この意見に対して、「賛成計」は25%、「反対計」56%と、「反対計」が「賛成計」を大きく上回る。

- 性別では、女性が「反対計」60%と、男性を上回る。
- 年代別では、10代で「反対計」が7割強と高い。一方、高年代ほど「賛成計」が高まる。
- 性別意識の影響ない選択では、『できている計』『できていない計』で意見に大差は見られない。

Q11.「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に賛成ですか。それとも反対ですか。(SA)

		(n)	賛成	どちらかという賛成	どちらかという反対	反対	わからない	賛成計	反対計
全体		(1,000)	3.6	21.0	31.3	24.5	19.6	24.6	55.8
性別	男性	(503)	5.2	24.3	29.4	22.3	18.9	29.4	51.7
	女性	(497)	2.0	17.7	33.2	26.8	20.3	19.7	60.0
年代別	10代	(55)	7.3	9.1	38.2	32.7	12.7	16.4	70.9
	20代	(165)	3.0	19.4	32.7	28.5	16.4	22.4	61.2
	30代	(167)	3.0	19.2	27.5	25.1	25.1	22.2	52.7
	40代	(224)	4.9	20.1	31.3	19.2	24.6	25.0	50.4
	50代	(199)	4.0	21.6	32.7	22.1	19.6	25.6	54.8
	60代	(190)	3.1	27.9	30.0	26.8	13.7	29.5	56.8
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	4.0	20.4	33.6	25.7	16.4	24.4	59.3
	できている	(220)	7.3	18.2	27.3	29.1	18.2	25.5	56.4
	どちらかというできている	(379)	2.1	21.6	37.2	23.7	15.3	23.7	60.9
	できていない計	(304)	3.0	24.0	30.9	25.0	17.1	27.0	55.9
	あまりできていない	(219)	3.1	26.5	34.2	20.1	17.4	28.3	54.3
	できていない	(85)	5.9	17.6	22.4	37.6	16.5	23.5	60.0
	わからない	(97)	3.1	15.5	18.6	15.5	47.4	18.6	34.0

※2%未満は非表示 (%)

賛成計：「(どちらかという)賛成」、反対計：「(どちらかという)反対」

女性が職業を持つことに対する意見

女性が「職業を持つほうがよい計」は7割を超える。中でも、「子どもができて、ずっと続けるほうがよい」が45%を占める。

- 性別では、「職業を持つほうがよい計」は男女同程度であるが、女性で「子どもができて、ずっと」が50%と、男性を10pt上回る。
- 年代別では、60代で「職業を持つほうがよい計」が86%と高い。
- 性別意識の影響ない選択では、『できている計』『できていない計』で意見に大差は見られない。

Q12. 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。(SA)

		(n)	女性は職業を持たないほうがよい	結婚するまでは、職業を持つほうがよい	子どもができて、子どもができて、ずっと続けるほうがよい	子どもができて、子どもがきたら辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい	その他	わからない	職業を持つほうがよい計	
全体		(1,000)	4.4	7.1	45.3	16.5	9.0	16.0	73.3	
性別	男性	(503)	2.2	4.8	9.3	40.6	17.1	8.7	17.3	71.8
	女性	(497)	4.0	4.8	50.1	15.9	9.3	14.7	74.8	
年代別	10代	(55)	5.5	10.9	41.8	16.4	12.7	10.9	74.5	
	20代	(165)	5.5	7.3	39.4	19.4	13.3	13.9	71.5	
	30代	(167)	4.8	5.4	42.5	15.6	13.8	16.8	68.3	
	40代	(224)	2.2	4.9	4.9	48.2	10.3	8.5	21.0	68.3
	50代	(199)	4.0	5.5	44.7	18.1	7.0	19.1	72.4	
	60代	(190)	2.2	2.6	11.6	51.1	20.5	2.6	9.5	85.8
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	5.8	7.8	45.9	16.7	10.7	12.0	76.3	
	できている	(220)	6.8	8.2	42.3	13.6	12.3	15.0	70.9	
	どちらかというのできている	(379)	5.3	7.7	48.0	18.5	9.8	10.3	79.4	
	できていない計	(304)	3.3	6.3	48.4	16.8	7.6	15.8	73.4	
	あまりできていない	(219)	2.3	7.3	46.6	17.4	6.4	18.3	73.1	
	できていない	(85)	5.9	2.4	3.5	52.9	15.3	10.6	9.4	74.1
	わからない	(97)	3.1	5.2	32.0	14.4	3.1	41.2	54.6	

※2%未満は非表示 (%)

職業を持つほうがよい計：「結婚するまでは、職業を持つほうがよい」～「子どもができて、ずっと続けるほうがよい」

男女の役割に対する意見【全体】

男女の役割について『家計を支えるのは男性の役割である』『育児休業は女性が取得したほうがよい』では「そう思う計」が5割強と「そう思わない計」を10pt以上上回る。『子どもが病気になったら母親が看病』『家事や育児は女性が』『男の子は男らしく、女の子は女らしく』といった子育てに関する意見では「そう思わない計」が5割前後で「そう思う計」を約10pt以上上回る。『男性の方が管理職やリーダーに適している』『男性は主たる仕事、女性は補助』『女性はキャリアアップしなくてもよい』といった仕事に関する意見では「そう思わない計」が「そう思う計」を大きく上回る。

Q13.あなたは、次の考え方についてどのように思いますか。(SA)

	(n)	そう思う	どちらかというそう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない	わからない	そう思う計	そう思わない計
家計を支えるのは男性の役割である	(1,000)	10.6	41.2	18.4	21.5	8.3	51.8	39.9
育児休業は女性が取得したほうがよい	(1,000)	11.4	39.8	19.7	18.6	10.5	51.2	38.3
子どもが病気になったら母親が看病したほうがよい	(1,000)	6.7	33.3	25.2	24.3	10.5	40.0	49.5
家事や育児は女性がやったほうがよい	(1,000)	4.9	33.4	27.0	26.3	8.4	38.3	53.3
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい	(1,000)	8.7	27.5	25.2	25.5	13.1	36.2	50.7
女性より男性のほうが管理職やリーダーに適している	(1,000)	4.7	17.4	30.5	30.5	16.9	22.1	61.0
男性は主たる仕事、女性は補助的な仕事をするものである	(1,000)	2.3	7.9	33.8	43.5	12.5	10.2	77.3
女性はキャリアアップしなくてもよい	(1,000)	2.1	5.3	26.1	55.0	11.5	7.4	81.1

そう思う計で降順ソート

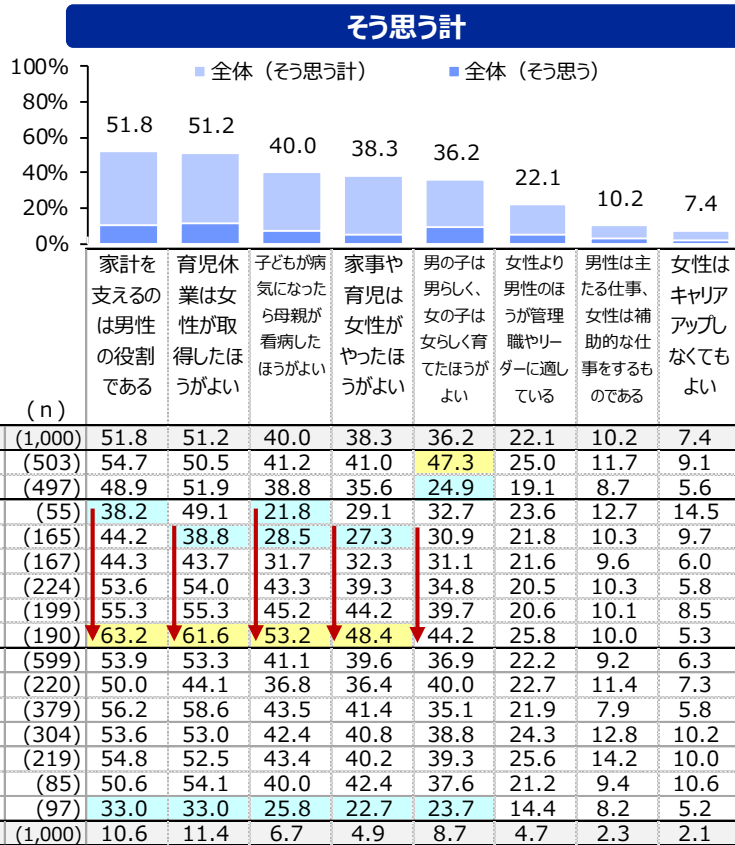
※2%未満は非表示 (%)

そう思う計：「(どちらかという)そう思う」、そう思わない計：「(どちらかという)そう思わない」

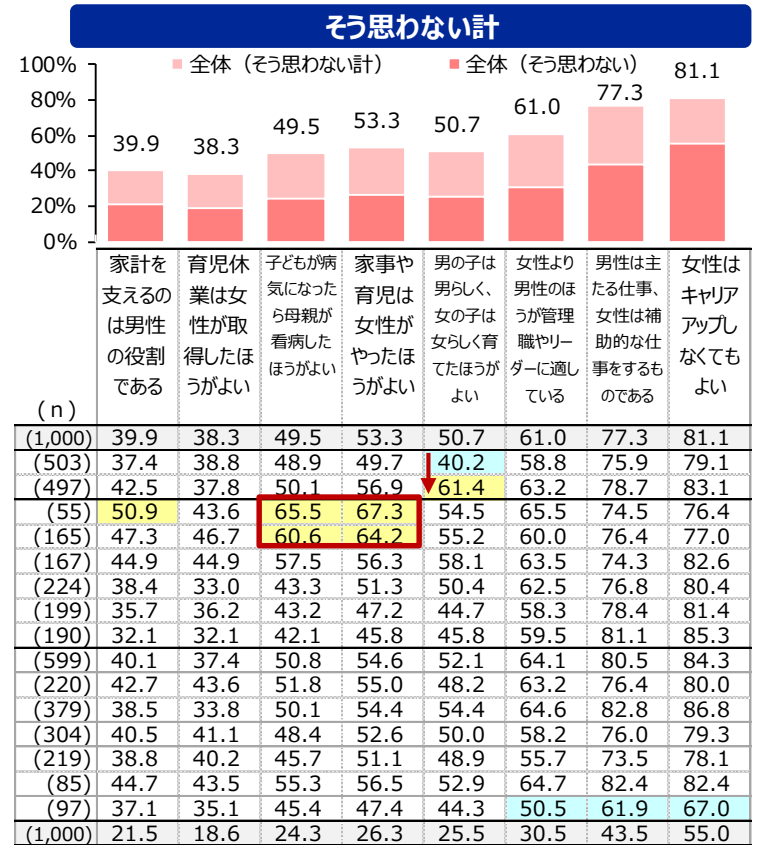
男女の役割に対する意見【属性別】

- ▶ 性別では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい」の否定的意見（そう思わない計）は女性が男性を20pt以上上回るが、そのほかの意見では大きな差は見られない。
- ▶ 年代別では、「子どもが病気になったら母親が看病したほうがよい」「家事や育児は女性がやったほうがよい」で10-20代で否定的な意見が多い。対して、「家計」や子育てに関する意見では高年齢層ほど肯定的意見が多い。

Q13.あなたは、次の考え方についてどのように思いますか。(SA)



※そう思う計で降順ソート(%)



※そう思わない計で降順ソート(%)

V. 結果の詳細

1. 性別に関する意識
2. 男女共同参画に関する意識
3. ワークライフバランスについて

現在の「仕事」「家庭生活」「自由時間」の優先度

「仕事」「家庭生活」「自由時間」を10としたとき、「仕事」の優先度は平均3.9。

▶ 性別では、男性が女性に比べて平均が1.2pt高い。年代別では、有職者比率が低い60代で平均が低い。

「家庭生活」の優先度は平均3.5。

▶ 性別では、女性が男性に比べて平均が1.2pt高い。年代別では、有職者比率が低く、「仕事」の平均が低かった60代が高い。

▶ 性別意識の影響ない選択では、『できていない計』が『できている計』に比べて平均が0.4pt高い。

Q14.あなたの現実の生活全体を10とした場合、「仕事」、「家庭生活」、「自由時間」を、それぞれのくらい優先（重視）しているかの比率を、全体が10になるように、それぞれに「0」から「10」の数値をご記入ください。

		仕事									平均値	家庭生活									平均値
		(n)	0	1	2	3	4	5	6	7-10		(n)	0	1	2	3	4	5	6	7-10	
全体		(1,000)	13.0	6.8	8.2	15.0	12.7	16.8	11.4	16.1	3.9	(1,000)	2.7	11.7	18.5	23.3	17.5	12.9	4.2	9.2	3.5
性別	男性	(503)	7.0	5.8	7.6	12.5	11.5	19.9	14.5	21.3	4.5	(503)	3.6	15.1	22.9	25.4	18.5	10.3	2.8	2.9	
	女性	(497)	19.1	7.8	8.9	17.5	13.9	13.7	8.2	10.9	3.3	(497)	8.2	14.1	21.1	16.5	15.5	7.0	15.7	4.1	
年代別	10代	(55)	7.3	7.3	21.8	14.5	20.0	21.8	5.5	4.2	(55)	3.6	16.4	29.1	34.5	9.1	3.6	6.6	2.5		
	20代	(165)	8.5	6.7	6.7	16.4	15.8	18.2	9.1	18.8	4.2	(165)	18.2	21.2	24.2	13.3	10.9	4.7	3.2		
	30代	(167)	12.0	8.4	8.4	17.4	12.0	13.2	9.6	19.2	3.9	(167)	3.6	9.0	18.6	13.8	20.4	16.8	3.6	14.4	3.9
	40代	(224)	11.6	4.9	8.5	12.9	8.5	18.8	12.9	21.9	4.3	(224)	3.6	16.1	18.8	25.0	15.2	12.1	7.6	3.2	
	50代	(199)	9.5	5.5	7.5	15.1	13.1	18.6	13.6	17.1	4.2	(199)	2.0	9.5	20.6	26.1	15.1	13.6	6.0	7.0	3.5
	60代	(190)	26.3	8.9	10.0	12.1	14.7	13.7	7.9	6.3	2.9	(190)	2.4	10.5	22.6	26.3	14.2	7.4	12.6	4.1	
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	10.2	7.5	7.7	15.2	13.7	18.4	12.2	15.2	4.0	(599)	2.5	10.9	20.0	23.2	20.4	12.5	3.7	2.3	3.4
	できている	(220)	9.1	8.2	8.2	15.0	12.3	18.2	11.8	17.3	4.1	(220)	3.2	12.7	23.2	21.4	21.4	10.5	5.9	3.2	
	どちらかというときどき	(379)	10.8	7.1	7.4	15.3	14.5	18.5	12.4	14.0	4.0	(379)	2.1	19.8	18.2	24.3	19.8	13.7	4.0	8.2	3.6
	できていない計	(304)	16.4	5.9	8.6	15.1	12.5	12.8	12.5	16.1	3.8	(304)	2.3	11.8	15.8	23.7	13.8	13.2	7.2	12.2	3.8
	あまりできていない	(219)	13.7	5.9	9.1	15.5	11.9	13.7	14.2	16.0	3.9	(219)	2.3	11.4	16.4	26.5	14.6	11.0	8.2	9.6	3.6
	できていない	(85)	23.5	5.9	7.1	14.1	14.1	10.6	8.2	16.5	3.5	(85)	2.4	12.9	14.1	16.5	11.8	18.8	4.7	18.8	4.1
	わからない	(97)	19.6	5.2	10.3	13.4	7.2	19.6	3.1	21.6	3.9	(97)	5.2	16.5	17.5	22.7	11.3	14.4	11.3	3.3	

※2%未満は非表示 (%)

※2%未満は非表示 (%)

現在の「仕事」「家庭生活」「自由時間」の優先度

「自由時間」の優先度は平均2.6。

▶ 年代別では、10代、60代で平均が3.0を超えて他層に比べて高い。

「仕事」「家庭生活」「自由時間」を10としたときの優先度は「仕事」が最も多く、「家庭生活」、「自由時間」と続く。

▶ 性別では、男性は「仕事」、女性は「家庭生活」が最も多い。

▶ 性別意識の影響ない選択では、女性比率の高い『できていない』で「家庭生活」が最も高い。

Q14.あなたの現実の生活全体を10とした場合、「仕事」、「家庭生活」、「自由時間」を、それぞれのくらい優先（重視）しているかの比率を、全体が10になるように、それぞれに「0」から「10」の数値をご記入ください。

		自由時間								平均値	全体を10とした時の割合				
		(n)	0	1	2	3	4	5	6	7-10		(n)	仕事	家庭生活	自由時間
全体		(1,000)	4.3	30.7	25.8	14.5	10.4	7.6	2.3	34.4	2.6	(1,000)	3.9	3.5	2.6
性別	男性	(503)	3.6	33.8	25.4	12.9	8.9	7.8	2.4	5.2	2.6	(503)	4.5	2.9	2.6
	女性	(497)	5.0	27.6	26.2	16.1	11.9	7.4	2.3	6.6	2.6	(497)	3.3	4.1	2.6
年代別	10代	(55)	10.9	25.5	27.3	18.2	9.1	7.3	0.7	0.0	3.3	(55)	4.2	2.5	3.3
	20代	(165)		30.3	26.1	14.5	15.8	7.9	3.0	0.0	2.6	(165)	4.2	3.2	2.6
	30代	(167)	6.6	40.1	20.4	16.8	6.0	6.0	2.4	0.0	2.2	(167)	3.9	3.9	2.2
	40代	(224)	5.4	37.1	23.7	11.2	7.6	7.1	2.5	2.8	2.5	(224)	4.3	3.2	2.5
	50代	(199)	6.5	33.2	26.6	12.6	10.6	5.0	2.3	0.0	2.3	(199)	4.2	3.5	2.3
	60代	(190)	3.2	18.4	32.1	14.7	10.5	11.6	2.6	6.8	3.0	(190)	2.9	4.1	3.0
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	3.8	29.9	27.2	14.7	10.0	7.3	2.3	34.7	2.6	(599)	4.0	3.4	2.6
	できている	(220)	3.2	29.1	28.2	13.2	8.6	8.2	2.7	6.8	2.7	(220)	4.1	3.2	2.7
	どちらかというどできている	(379)	4.2	30.3	26.6	15.6	10.8	6.9	1.1	3.4	2.5	(379)	4.0	3.6	2.5
	できていない計	(304)	4.3	33.2	27.0	13.8	9.9	5.9	4.3	0.0	2.4	(304)	3.8	3.8	2.4
	あまりできていない	(219)	2.7	31.1	28.3	16.0	12.3	5.9	3.2	0.0	2.4	(219)	3.9	3.6	2.4
	できていない	(85)	8.2	38.8	23.5	8.2	5.5	9.4	7.1	0.0	2.4	(85)	3.5	4.1	2.4
	わからない	(97)	7.2	27.8	13.4	15.5	14.4	14.4	4.1	3.1	2.8	(97)	3.9	3.3	2.8

※2%未満は非表示 (%)

各平均値

理想の「仕事」「家庭生活」「自由時間」の優先度

「仕事」「家庭生活」「自由時間」を10としたとき、「仕事」の理想の優先度は平均3.4。

▶ 性別では、男性が女性に比べて平均が0.5pt高い。年代別では、有職者比率が低い60代で平均が低い。

「家庭生活」の理想の優先度は平均3.5。

▶ 性別では、女性が男性に比べて平均が0.4pt高い。年代別では、有職者比率が低く、「仕事」の平均が低かった60代が高い。

▶ 性別意識の影響ない選択では、『できている計』と『できていない計』の平均が3.5と同程度であった。

Q15.あなたの理想の生活全体を10とした場合、「仕事」、「家庭生活」、「自由時間」を、それぞれのくくらい優先（重視）しているかの比率を、全体が10になるように、それぞれに「0」から「10」の数値をご記入ください。

		仕事								平均値	家庭生活								平均値
		(n)	0	1	2	3	4	5	6-10		(n)	0	1	2	3	4	5	6-10	
全体		(1,000)	8.7	7.2	13.9	25.5	16.5	16.2	12.0	3.4	(1,000)	2.2	6.5	13.7	28.8	26.0	15.8	7.0	3.5
性別	男性	(503)	8.2	7.2	12.9	19.3	16.9	20.1	15.5	3.6	(503)	3.4	9.1	14.1	27.8	26.2	13.7	5.6	3.3
	女性	(497)	9.3	7.2	14.9	31.8	16.1	12.3	8.5	3.1	(497)	3.8	13.3	29.8	25.8	17.9	8.5		3.7
年代別	10代	(55)	3.6	5.9	1	32.7	10.9	23.6	14.5	3.8	(55)	16.4	21.8	38.2	14.5	5.5			2.7
	20代	(165)	8.5	6.7	19.4	19.4	18.8	18.8	8.5	3.3	(165)	2.4	7.9	13.9	30.9	23.0	13.9	7.9	3.4
	30代	(167)	4.2	10.2	18.6	31.1	14.4	9.0	12.6	3.3	(167)	3.6	15.0	18.0	31.7	18.0	12.0		3.8
	40代	(224)	7.6	8.5	11.2	24.6	15.2	17.9	15.2	3.6	(224)	3.1	8.0	14.7	32.6	23.2	12.1	6.3	3.3
	50代	(199)	8.0	4.0	12.1	26.1	18.1	19.6	12.1	3.5	(199)	2.5	5.5	13.6	30.7	26.1	18.6	3.0	3.5
	60代	(190)	16.3	7.4	11.6	24.2	17.9	12.6	10.0	3.0	(190)	4.2	8.9	27.4	30.0	20.0	8.4		3.8
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	8.3	6.7	14.0	24.9	17.2	16.0	12.9	3.4	(599)	2.0	5.8	13.9	29.5	26.7	15.4	6.7	3.5
	できている	(220)	9.1	7.7	13.6	24.1	15.0	17.3	13.2	3.4	(220)	3.2	6.8	15.0	34.1	19.1	17.7	4.1	3.3
	どちらかというどできている	(379)	7.9	6.1	14.2	25.3	18.5	15.3	12.7	3.4	(379)	5.3	13.2	26.9	31.1	14.0	8.2		3.6
	できていない計	(304)	8.2	7.9	12.8	26.6	17.4	16.1	10.9	3.4	(304)	6.9	13.2	27.6	26.6	15.8	7.9		3.5
	あまりできていない	(219)	6.8	7.8	13.7	28.8	15.1	17.8	10.0	3.4	(219)	5.9	13.7	29.7	26.0	16.9	6.4		3.6
	できていない	(85)	11.8	8.2	10.6	21.2	23.5	11.8	12.9	3.4	(85)	3.5	9.4	11.8	22.4	28.2	12.9	11.8	3.5
	わからない	(97)	12.4	8.2	16.5	25.8	9.3	17.5	10.3	3.2	(97)	4.1	9.3	14.4	27.8	19.6	18.6	6.2	3.4

※2%未満は非表示 (%)

※2%未満は非表示 (%)

理想の「仕事」「家庭生活」「自由時間」の優先度

「自由時間」の理想の優先度は平均3.1。

▶ 年代別では、10代で平均が3.5と他層に比べて高い。

理想の優先度は「家庭生活」> 「仕事」> 「自由時間」。現実と比べ「自由時間」が増加する。

▶ 性別では、男性は「家庭生活」「自由時間」、女性は「自由時間」が増加しており、年代別では、20-50代で「仕事」が減少し「自由時間」が増加している。

▶ 性別意識の影響ない選択では、『できていない』で「家庭生活」が減少し、「自由時間」が増加している。

Q15.あなたの理想の生活全体を10とした場合、「仕事」、「家庭生活」、「自由時間」を、それぞれのくらい優先（重視）しているかの比率を、全体が10になるように、それぞれに「0」から「10」の数値をご記入ください。

		自由時間							全体を10とした時の割合			理想-現実					
		(n)	0	1	2	3	4	5	6-10	平均値	(n)	仕事	家庭生活	自由時間	仕事	家庭生活	自由時間
全体		(1,000)	12.7	28.3	24.0	16.1	9.1	8.0	3.1	(1,000)	3.4	3.5	3.1	-0.5	0.0	0.5	
性別	男性	(503)	2.4	16.3	29.4	20.1	15.1	7.2	9.5	3.0	(503)	3.6	3.3	3.0	-0.9	0.4	0.5
	女性	(497)	9.1	27.2	28.0	17.1	11.1	6.4	3.2	(497)	3.1	3.7	3.2	-0.2	-0.4	0.6	
年代別	10代	(55)	5.5	23.6	32.7	20.0	5.5	12.7	3.5	(55)	3.8	2.7	3.5	-0.4	0.2	0.2	
	20代	(165)	11.5	21.8	26.1	21.8	10.3	7.3	3.2	(165)	3.3	3.4	3.2	-0.9	0.3	0.6	
	30代	(167)	14.4	29.9	26.9	12.6	5.4	9.0	2.9	(167)	3.3	3.8	2.9	-0.7	-0.1	0.8	
	40代	(224)	2.2	18.3	25.0	19.2	16.5	10.7	8.0	3.1	(224)	3.6	3.3	3.1	-0.7	0.1	0.6
	50代	(199)	2.5	9.0	34.7	25.1	13.1	9.0	6.5	3.0	(199)	3.5	3.5	3.0	-0.7	0.0	0.7
	60代	(190)	11.6	31.1	21.6	15.8	10.5	7.9	3.1	(190)	3.0	3.8	3.1	0.2	-0.3	0.1	
性別意識の影響ない選択	できている計	(599)	13.2	29.5	24.2	14.2	9.2	7.8	3.0	(599)	3.4	3.5	3.0	-0.6	0.1	0.5	
	できている	(220)	12.3	27.3	21.4	15.5	10.9	10.9	3.3	(220)	3.4	3.3	3.3	-0.7	0.1	0.6	
	どちらかというとできている	(379)	13.7	30.9	25.9	13.5	8.2	6.1	2.9	(379)	3.4	3.6	2.9	-0.5	0.1	0.4	
	できていない計	(304)	12.2	27.6	26.0	18.1	7.9	6.9	3.1	(304)	3.4	3.5	3.1	-0.4	-0.2	0.7	
	あまりできていない	(219)	12.3	24.2	25.6	22.4	8.2	5.5	3.1	(219)	3.4	3.6	3.1	-0.6	-0.1	0.6	
	できていない	(85)	11.8	36.5	27.1	7.1	7.1	10.6	3.1	(85)	3.4	3.5	3.1	-0.1	-0.6	0.7	
わからない	(97)	3.1	11.3	22.7	16.5	21.6	12.4	12.4	3.4	(97)	3.2	3.4	3.4	-0.6	0.1	0.6	

※2%未満のグラフスコアは非表示 (%)

スコアは全体を10とした時の割合

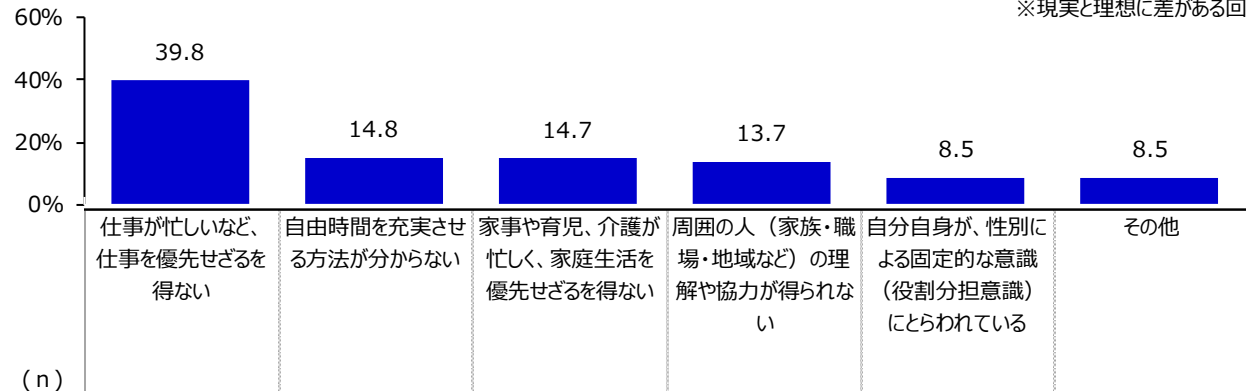
現実と理想のギャップの理由

現実と理想の生活にギャップが生じている理由としては、「仕事が忙しいなど、仕事を優先せざるを得ない」が40%で最も高い。

- 性別では、男性は「仕事が忙しい」に理由が集中するのに対し、女性は「仕事が忙しい」「家事や育児、介護が忙しい」が同程度で最も高い。
- 性別意識の影響ない選択では、『できていない』は「家事や育児、介護が忙しい」が25%と他層と比べて高い。

Q16. 現実と理想の生活にギャップが生じている理由は何だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。(SA)

※現実と理想に差がある回答者ベース



		(n)	仕事が忙しいなど、仕事を優先せざるを得ない	自由時間を充実させる方法が分からない	家事や育児、介護が忙しく、家庭生活を優先せざるを得ない	周囲の人（家族・職場・地域など）の理解や協力が得られない	自分自身が、性別による固定的な意識（役割分担意識）にとらわれている	その他	
全体		(721)	39.8	14.8	14.7	13.7	8.5	8.5	
性別	男性	(348)	54.0	14.7	4.9	12.6	7.2	6.6	
	女性	(373)	26.5	15.0	23.9	14.7	9.7	10.2	
年代別	10代	(38)	28.9	21.1	10.5	13.2	18.4	7.9	
	20代	(129)	34.9	16.3	13.2	20.2	7.8	7.8	
	30代	(129)	40.3	14.7	20.2	14.7	5.4	4.7	
	40代	(153)	53.6	11.1	12.4	10.5	5.2	7.2	
	50代	(151)	47.0	15.2	9.9	12.6	6.0	9.3	
	60代	(121)	21.5	15.7	20.7	11.6	16.5	14.0	
性別意識の影響ない選択	できている計		(439)	42.6	14.4	13.2	12.1	7.1	10.7
		できている	(161)	45.3	14.3	14.3	9.9	3.7	12.4
		どちらかというできている	(278)	41.0	14.4	12.6	13.3	9.0	9.7
	できていない計		(221)	33.0	10.9	19.9	18.1	12.2	5.9
		あまりできていない	(157)	36.3	12.1	17.8	15.9	12.7	5.1
		できていない	(64)	25.0	7.8	25.0	23.4	10.9	7.8
わからない		(61)	44.3	32.8	6.6	9.8	4.9	1.6	

※全体値で降順ソート(%)

Rakuten Insight